

別紙3 令和8年度 学校関係者評価書 作成日 令和8年9月10日 国分寺市立八小中学校 校長名 矢島 英明

教育目標:	○よく考える子	◎思いやりのある子	○じょうぶな子	○進んでやる子
目指す学校像:	【安心】一人一人の居場所と心身の安全・安心がある学校 【信頼】児童、保護者、地域から信頼される学校 【成長】互いに高め合い、喜びや達成感を抱ける学校 【協力】エネルギーに満ちた活力ある学校			
目指す児童・生徒像:	○正しい行動への判断基準に基づき、人のため、社会のために役立つ行動ができ、困難を乗り越え、粘り強く挑戦することができる子。			
目指す教師像:	○児童、保護者、地域の方から信頼される教職員 ○教育への情熱、創意工夫と向上心をもつ教職員 ○心身ともに健康に生活することの意義と方策を学び、保護者や地域と共に児童が健やかに育つよう努める教職員 ○組織の一員として学校運営に参画できる教職員			

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
確かな学力の育成	実際の社会や生活で役立つ知識や未知の状況でも対応できる判断力等の自立と自己実現を図る資質や能力を育てる。	すべての児童にとって、学びやすい環境を整備する。	個に応じた指導の充実やICT機器の積極的な活用など、具体的な手立てを工夫する。	3		4		ICT端末の活用等による視覚的支援や個別支援の充実が必要。効果的な指導方法を市内や校内の教員で共有し、授業改善を進めていく。また、校内研究を中心に「話し合い」の充実を図ることにより「主体的・対話的で、深い学び」の実現を図る。	先生方は個々の児童をよく見ながら分かる授業をしている。学校公開でも、タブレットを活用し、児童が興味関心をもてる学習が展開されていた。ただ、新しいタブレットは起動に時間がかかり、使いづらさも感じられた。また、ICTの活用と「話し合い」の充実をどのように統合するのかが課題である。生きる力を育む「学力」とは何か、考えていく必要がある。
		主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行う。	校内研究やOJT研修の充実を図り、教師の授業力や指導力の向上を図る。						
豊かな心の育成	人権と生命を尊重する教育活動を通して、相手を思いやり仲間を大切にし、思いを寄せ合い響き合える心温かい児童を育てる。	基本的生活習慣の徹底を図り、規律と秩序ある学校づくりを推進する。	あいさつ運動の取組、「八小生活の約束」をもとに基本的生活習慣を身に付けさせる。	4		3		家庭や地域でもすすんであいさつできる児童の育成が課題。代表委員会のあいさつ運動等で校内でのあいさつを充実させる。また保護者・地域の方・CS関係者等への挨拶を促し、校内のあいさつに慣れることで、主体的にあいさつのできる子を育てる。	卒業式の在校生の態度がよかった。登下校の児童の様子も落ち着いて穏やかである。周囲の人に会釈ができるのも、取組を積み重ねた成果であり、今後も継続していくとよい。家庭、地域でのあいさつは、地域の人からも声をかけ、大人が積極的な姿勢を見せることも必要である。「豊かな心」の育成は、「あいさつ」だけでなく全体的な育ちを見ていくとよい。
		自尊感情や自己肯定感を育み、豊かな心を育てる。	いじめの予防や早期発見・早期対応への取組や道徳・特別活動等で思いやりの心を育てる。						
健やかな心と体の育成	健全な生活習慣を身に付け、生涯を通して運動を楽しむとともに、健全な心を維持できる資質・能力を育む。	地域や保護者と連携して、心身の健康・安全への意識の向上を図る教育活動を実施・継続するとともに、教職員自身の健康を保つようにする。	児童が自ら心身の健康を大切にする力や意欲を育てるよう、計画的・継続的に働きかける。	3		3		高学年児童が日常的に運動を楽しめるようにすることが課題である。体育の学習や集会活動、縦割り活動等で機会や場を設定し、運動遊びの楽しさを体験させ、家庭や地域、また将来も運動に親しむことができる児童を育てる。	運動委員会の「遊びの広場」の活動を活用するとよい。ともに遊ぶ中で学年を超えた仲間も広がる。「鬼ごっこ月間」のようにテーマを決めて遊ぶのもよい。遊び道具があると運動に対する興味関心が高まるため、スポーツ推進委員にアイデアをもらい、道具の充実を図るとよい。また、第三中学校の「おやじの会」主催のスポーツを楽しむ企画を八小でも実施すると、児童が運動を楽しめると思う。
			教職員のライフワークバランスを考慮した働き方改革の推進を図る。						
家庭・地域との連携・協働	コミュニティ・スクール組織を活用し、保護者・地域と連携し、地域人材や知的・文化的・歴史的環境を生かした教育活動を国分寺学として位置付け、推進する。	組織を活用して、人材や環境等、地域の教育力を引き出し、連携を強化する。	学校支援ボランティアや地域関係機関と連携した体験的な地域学習(国分寺学)の充実を図る。	3		4		10月に5年生が光公民館主催の防災学習会に参加を予定。引き続き、地域学習(国分寺学)の充実により、地域と主体的にかかわる児童を育成する。また、八小児童の健やかな成長のために児童・保護者・地域が連携できるよう、つながりづくりの場や機会を設定、継続していく。	運動会で国分寺音頭を踊ることが定着し、地域の盆踊りで踊ったり、手伝ったりする児童が増え、児童と地域のかかわりが充実した。地域学習について児童・保護者の満足度が高いことは、地域もうれしい。音楽会のCS合唱団、大人の国分寺学、グリーンボランティア、防災学習等様々な大人を巻き込んで繋がりを作り、活動を楽しむ姿を児童に見せていくことが大切なのではないか。
		学校の情報を発信し、開かれた学校の具現化を目指す。	各種お便り、八小中学校運営協議会、学校公開、学校説明会、ブログ等を活用して情報を発信する。						

